



*Beltone*<sup>TM</sup>

**Solus Max  
&  
Rely - リライ**

**基本操作テクニック&110番**

# Rely - 110番 ①

## A 顧客データの作成をしましょう。

1 Beltone Solus Maxを左ダブルクリック<sup>☹</sup>☹で開きましょう。

2 顧客画面です。



### 新規登録 の場合

1. ① **新しいお客様を追加** を左クリック<sup>☹</sup>☹します。

2. **氏名** を必ず 名・姓 を入力します。未入力だと保存できません。

さらに詳しい情報の入力は下記をクリックして下さい。

▼ お客様に関する項目をさらに表示

### 再調整 の場合

1. ② で顧客の検索をします。



姓・名どちらの入力でも検索可能です。



※ 顧客を選択してから

4へ進みます。

3 **オーディオグラム** 「オーディオグラム」を<sup>☹</sup>☹左クリックします。

※新規の場合 もしくはオーディオグラムを変更したい場合に使用します。

① グラフ上で左クリック<sup>☹</sup>☹しながら、左右のオーディオグラムを入力します。(右クリック<sup>☹</sup>☹は入力取り消し)

② 右下の **保存** を左クリック<sup>☹</sup>☹します。

☑ お客様が適切に保存されました と表示され、

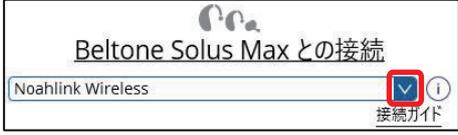
**フィッティング** がブルーになったら保存完了です。

4 画面右下の **フィッティング** ボタンを左クリック<sup>☹</sup>☹します。

# Rely - 110番 ②

## B これから Rely の接続を始めましょう。

ステップ①

右上の  部分の  を左クリック  します。

ステップ②

Speedlink
<b>Noahlink Wireless</b>
Speedlink
Hi-Pro
NOAHlink

【対応インターフェース】： 63DW → Noahlink Wirelessのみ  
64DW / 76DW / 86DW → 全てOK

プログラミング・インターフェースの中より「Noahlink Wireless」を選択します。  
(今までのAirlink2をお使いの方も、「Noahlink Wireless」を選択してください。)

ステップ③

### Noahlink ワイヤレス の場合 ※ 63DWは、NoahlinkWirelessのみ接続可能です。

① 補聴器の電源を入れて、 を左クリック  します。

<b>電源の入れ方</b>	63DWの場合 ... 補聴器のプッシュボタンを5秒間長押ししてオンにする 64DW / 76DW / 86DWの場合 ... 補聴器のバッテリードアを開める
△ 63DWは、1分以上経過してしまうと、補聴器が接続できなくなり、再起動が必要になる場合があります。	

【確認方法】

LED表示	電源オン: 1秒点灯
	電源オフ: 3回点滅

② 補聴器の検出後にピーブ音を鳴らし、左右正しい補聴器を選択できているか確認します。  
間違いなければ「右を指定」「左を指定」を左クリック  して、補聴器を確定します。

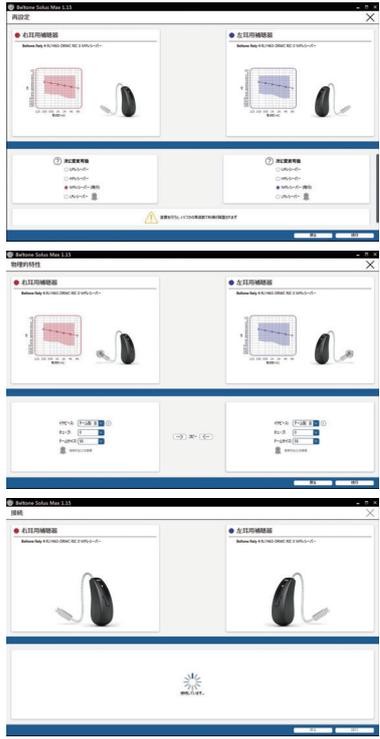


③  (続行) を左クリック  します。

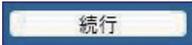
### Hi-Pro / NOAHlink / Speedlink の場合 ※ 64DW / 76DW / 86DWはブーツ+グレーケーブルでも接続可能です。

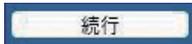
① (接続する) を左クリック  し、補聴器が検出されたら (続行) を左クリック  します。

ステップ④

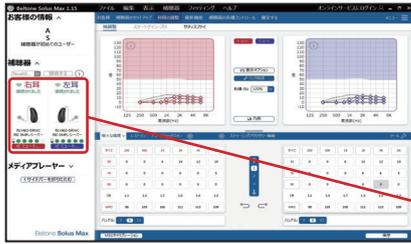


① 適当なレーザーを選択し、 (続行) を左クリック  します。  
推奨のレーザーには  マークがついています。

② 耳栓などの、物理的な特性の情報を入力し、 (続行) を左クリック  します。  
※ 耳栓の種類によって低域の利得が変化します。  
推奨の耳栓形状には  マークがついています。

③  (続行) を左クリック  します。

# Rely - 110番 ③



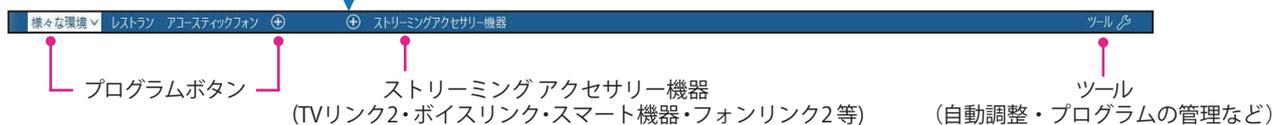
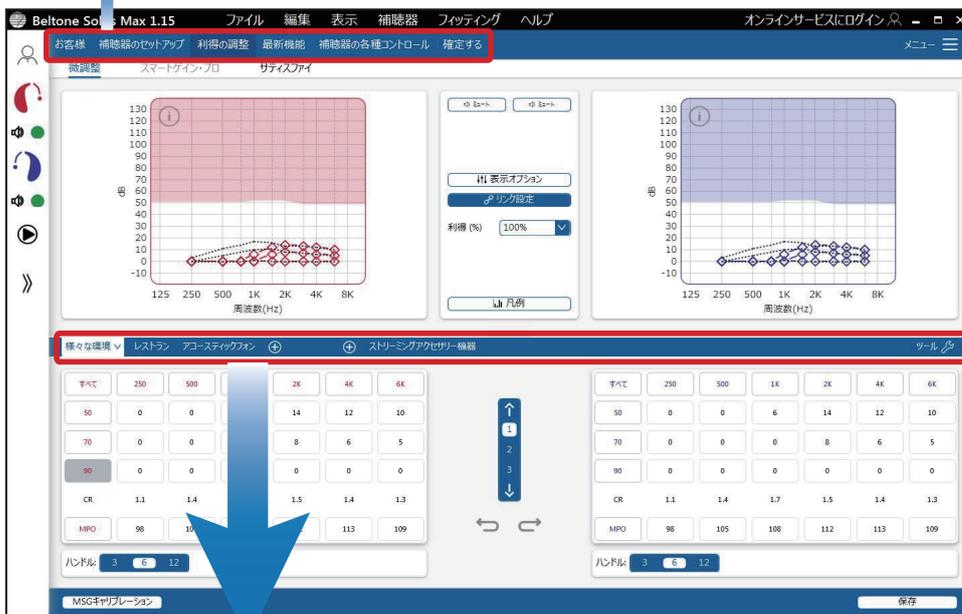
③ この画面になったら、補聴器の接続は完了です。

※ 補聴器の接続時、新規補聴器を接続した場合は必ず「ミュート」となります。これは Solus Max Ver.1.13 以降の仕様となり、変更はできません。既存の顧客の調整等ですでに保存されている補聴器を再接続した場合は、ミュートは解除された状態で接続されます。ただし、**フィードバックイレイサー**（ハウリング防止機能）を起動させたあとにフィッティング画面に戻りますと、**再度ミュート状態**になりますので、解除するようにお願いいたします。

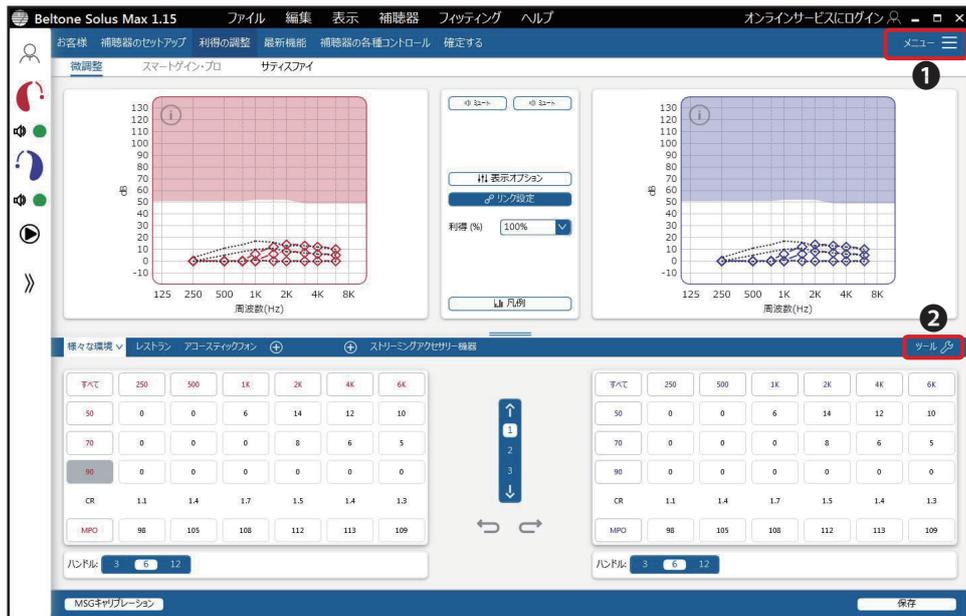


## Rely のフィッティングをします。

補聴器接続後、画面左上の目的の項目をクリックし、フィッティングの画面に移ります。このバージョンから、項目が細分化されています。



# Rely - 110番 ④



## ポイント

### フィッティングをどのようにすればいいかわからない場合

① 右上にある **メニュー** を左クリックしてください。内容が提示されます。



① 「**Solus Maxのガイド**」を左クリックしてください。

② 開いたウインドウで番号順に必要項目を左クリックしてください。

③ 右下のボタンで適用させたい耳を左クリックしてください。



※ Solus Proでは、「フィッティングウィザード」の名称だったものです。

## ポイント

### お客様の聴力にあわせて自動調整を行いたい場合

② 右中段にある **ツール** を左クリックしてください。内容が提示されます。

① 「再計算」を左クリックしてください。再計算ウインドウが開きます。

② 再計算をするプログラム（メモリー）を選択し、左クリックしてください。

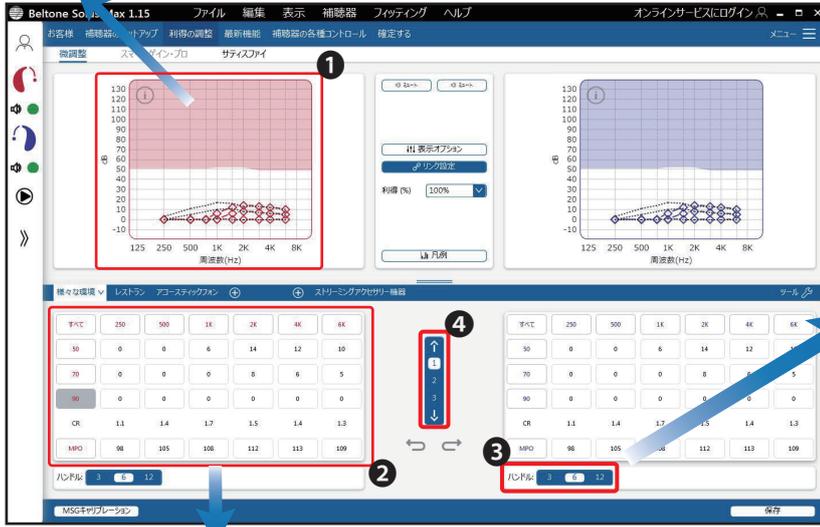
③ 左下のボタンで適用させたい耳を左クリックしてください。



# Rely - 110番 ⑤

## D グラフを見ながら、音量の調整をしていきます。

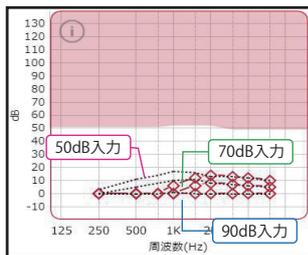
① グラフ(50dB入力 / 70dB入力 / 90dB入力)



③ 「ハンドル」を変えることで細かく調整できる周波数域を増減できます。

- Rely 4 (3/6/12)
- Rely 3 (3/6/ 8)
- Rely 2 (2/4/ 6)
- Rely 1 (2/3/ 4)

② 利得(50dB / 70dB / 90dB) / MPO 音量の増減(幅)



- すべて** >>> 50 / 70 / 90 全体の音量調整をします。
- 50** >>> 小さい声、2～3m以上離れた音
- 70** >>> 普通の声(1m)、1～2mの音
- 90** >>> 大きな音(耳元)、1m以内の音
- MPO** >>> 出力制限、周りの音が響かないように出力音の上限を決めます。

		周波数(Hz)						
		すべて	250	500	1K	2K	4K	6K
入力音(dB)	50	0	0	6	14	12	10	
	70	0	0	0	8	6	5	
	90	0	0	0	0	0	0	
	CR	1.1	1.4	1.7	1.5	1.4	1.3	
出力音(dB)	MPO	98	105	108	112	113	109	

低音域
中音域
高音域

※6ハンドル選択時

④ 利得調整と出力調整をします。まずは音量の増減を行い、その後MPOの増減を行います。

⇒ ① 縦に並んだ数字の1・2・3(dB)より増減幅を選択し左クリック🖱️します。

② ⬆️ ⬆️ キーで入・出力音の増減をします。

これらを、必要な回数分左クリック🖱️して下さい。

### ポイント

音量は、1m程度で丁度よく、3mだと少し聞きづらい・・・が目安です。  
『うるさくないように』『周りの音が響かないように』を心掛けましょう。  
お客様との会話には『大きい声は使わず、ゆっくり、ハッキリ』を心掛けてください。

## E 快適な聞こえのために、補聴器の機能を活用します



**ステップ①** ① 「最新機能」をクリックし、目的に合わせて下段で「会話」「コンフォート」を選びます。

**ステップ②** ② の内容から調整したい機能を選び、スライダーにて調整します。

### <会話>

☆耳介の集音に近い自然な指向性！ S/N比向上！ ……「指向性」※ 4:空間的指向性/スピーチスポッター  
3 / 2:スピーチスポッター  
1:環境適応型指向性

### <コンフォート>

※ グレードにより、表示されるものが変わります

☆ハウリングの抑制をお客様のニーズによって  
変更したい！ ……「フィードバックイレーサー」

※ 詳細は7ページ参照

☆環境雑音を抑制したい！ ……「サウンドクリーナー・プロ」

☆不快な風切り音を減衰したい！ ……「風切り音の減衰」※ 有無はメモリーによる

☆突発的な衝撃音を防ぎたい！ ……「インパルスノイズリダクション」

☆回路ノイズを抑制したい！ ……「サイレンサー」

## ハウリングの抑制をお客様のニーズによって変更したい!

### ステップ①

① **MSGキャリブレーション** を左クリック<sup>🖱️</sup>し、MSGキャリブレーションを行います。

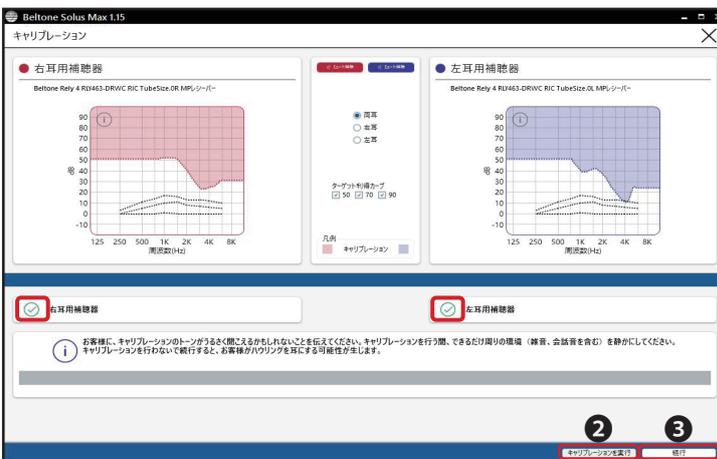
※ MSGキャリブレーションを行う前は、不意なハウリングを抑制するための「セーフガード」があらかじめ働いています。



周囲の環境がうるさいと、うまくいかない場合があります。お客様には検査音が鳴っている間は声を出さないように指導し、できるだけ静かな環境（静かな事務所レベル）で実行してください。

### ステップ②

② **キャリブレーションを実行** を左クリック<sup>🖱️</sup>します。



※ MMレシーバーの場合は、最後の保存ができませんので必ず行います。

### ステップ③

③  のマークが出たら、MSGキャリブレーションが完了した合図です。

③ **続行** を左クリック<sup>🖱️</sup>して終了します。

### ステップ④

④ 上部の「最新機能」を左クリック<sup>🖱️</sup>し、「フィードバックイレーサー」にてハウリング抑制機能の強度の変更を行います。



※ グレードによって選択できるポイントが変わります。また、推奨の強さにはグレーの●印がついています。自動調整を行った場合は、推奨値に●印がついています。

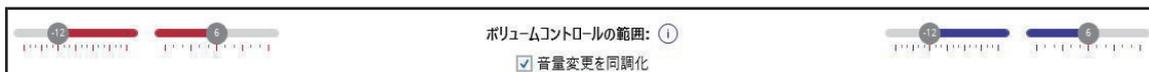
## F 電池交換のお知らせ音などを、お客様に確認して頂きます。



### 補聴器の各種コントロールを使ってみます。

**ステップ①** フィッティングメニューの中の①「補聴器の各種コントロール」を左クリック🖱️します。

**ステップ②** ②の中にある「ボリュームコントロール範囲」で補聴器とリモコンのボリューム調整時の可変幅が設定できます。



ボリューム範囲の設定のみ、 音量変更を同調化 にチェックが入っていれば片方の補聴器で調整した音量に反対側も自動で調整されます。

**ステップ③** ③の中にある「ボタンのオプション」で補聴器の押しボタンのカスタマイズをすることができます。(補聴器のボタンを1秒未満押した場合と、1秒以上長押しした場合で別の機能を使うことができます。)

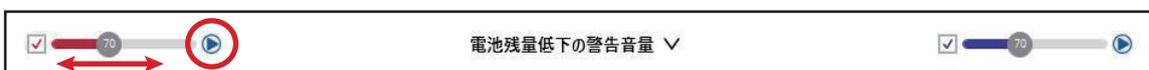
▶▶▶ なし / 音量を上げる / 音量を下げる / メモリーの変更 / ワイヤレスストリーミングの起動 / 最小音量 / ミュート / ミュート解除 より選択可能

※初期設定のままで良い場合は、変更の必要はありません。



設定できたら、④の「標準ビープ音」タブを左クリック🖱️します。

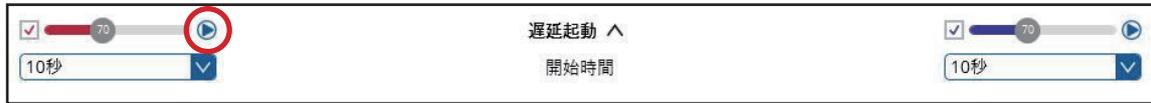
**ステップ④** 「電池残量低下の警告音量」横の🔊を左クリック🖱️し、電池交換時のお知らせ音をお客様に確認して頂きます。また必要に応じてスライダーで音量を変更します。



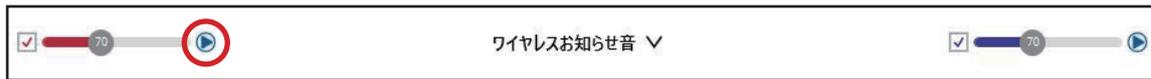
# Rely - 110番 ⑨

**ステップ⑤** 「標準ビープ音」の中にある「遅延起動」で遅延起動の音をお客様に確認して頂きます。

※遅延起動とは、補聴器の電源が入った後、補聴器から音がでるまでに時間差をすることです。  
初期設定は10秒ですが、5秒にも変更可能です。また、チェックを外すと「オフ」に出来ます。



**ステップ⑥** ワイヤレス機器を使用している場合には、「標準ビープ音」の中にある「ワイヤレスお知らせ音」にて音の確認や音量の調整が可能です。

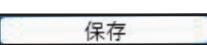


## H 最後に、補聴器とデータを保存します。

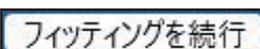


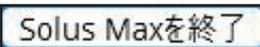
**ステップ①** ① 「確定する」→「保存のオプション」を左クリック  します。

**ステップ②** ② より「データベースと補聴器」が選択されていることを確認します。  
※必要に応じて「補聴器のみ」「データベースのみ」もお選び頂けます。

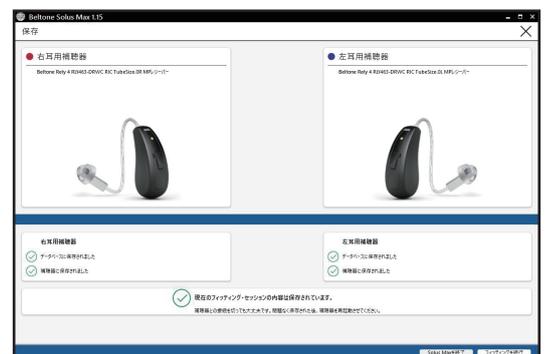
**ステップ③** ③  を左クリック  します。

**ステップ④** 右の画面になれば、保存が完了です。

**ステップ⑤** フィッティングを続ける場合：

Solus Maxを終了する場合：

を左クリック  します。



**ポイント** **データロギング**を確認したい場合  
「お客様」→「データロギング」の順に左クリック  し、画面を開きます。

